

中国語の“下”と“～下”について

王 志 英

要 約

中国語の“下”は動詞としても、方向補語としても使われる。“下”と“～下”のプロトタイプの意味は主体や事物が高い場所から低い場所への移動を表すが、後につく場所目的語と目的語の意味により、様々な拡張した意味を得ることができる。動詞“下”の後は場所目的語である場合、その場所目的語の出発点か着地点がプロファイルされることになる。プロファイルされている部分が出発点であれば、「離れる、終了する」などの意味を表し、着地点であれば、「到達して、～に従事する」という意味を表す。“下”の後は目的語であれば、主体や事物はその目的語を下へ移動し、「入れる、与える」などの意味を表す。方向補語の“～下”の後は場所目的語であれば、主体や事物は動作を伴い、出発点から移動するか、着地点に到着するかを表す。また、“～下”の後の目的語は出発点からの移動であれば、ある事物及び場所から離れ、「分離、遺棄、決定、停止、残す」などの意味を表す。もし目的語の着地点がプロファイルされれば、その目的語が上から下へ移動され、主体はその目的語を所有することになるという意味を表す。

キーワード：動詞、方向補語、移動、場所、目的語

1. 始めに

中国語の“下”は動詞としても、方向補語としても使われ、語義は多岐にわたる¹⁾。動詞や方向補語として使われる時、前の動詞と後の目的語との取り合わせが豊富多彩で、中国語学習者にとって習得するのが困難である。“下”と“～下”についての先行研究が多数であるが、ここでは主に以下のものを紹介しておく。

关键2000は動詞としての“下”は“从高处向低处位移”と説明し、方向補語としての“～下(来/去)”は二つの意味があって、それぞれ“向下位移的达成”(下₁)と“达成”(下₂)であると説明する。更に“下₁”と“下₂”の後に接続する動詞の意味の違いについて、その用法を詳しく論じた。

杉村博文1982は動詞“下”の意味を説明するには、“上”の反義語の“下”を“下₁”と記し、“起”の反義語の“下”を“下₂”と記す。しかし、次の例は“起”と“下”は反義語どころか、ほぼ近い意味を表している。

- (1) 她把讲义留起来, 准备以后再用。(いつかまた使えるように彼女は講義ノートをしめておいた)
- (2) 她把讲义留下来, 准备以后再用。(いつかまた使えるように彼女は講義ノートをしめておいた)(房 1992: 544)

“下”の反義語の立場から“下”を説明するにはまだ検討する余地があると思われる。

张其昀1995は地理空間要因、人間の心理的な要素、言葉の慣用的な用法から、“上”と“下”の違いについて論じたが、納得のできない箇所がある。例えば、“依语言习惯, ‘上’ 比起 ‘下来’, 多出一限制: 作为宾语的必须是双音节或多音节词语。比如 ‘下海’ 可说, 而 ‘上海’ 不可说。”(1995: 42) という指摘があるが、しかし、“下车”に対して“上车”のように、“上”の

後に単音節の目的語をつく例もあるのである。

以上の先行研究は“下”の語彙意味の分析に注目しているが、やはり中国語学習者にとって、“下”を習得するのに難しいと思われる。

本稿は先行研究の成果とその問題点をふまえた上で、“下”と“～下”の構文の特徴からその機能を分かりやすく説明してみる。

2. 動詞としての“下”

動詞としての“下”の基本義は主体や事物が高い場所から低い場所への移動を表す。目的語の有無によって、二つの文型にまとめることができる。

① (S) 下 + Lo (S: 主語 Lo: 場所目的語)

② (S) + (給、在) + L + 下 + O (L: 場所 O: 目的語)

①は主体や事物が下への移動を表すが、出発点からか着地点からか視点の置き方の違いによって、更に二つの用法に分けることができる(2.1.1と2.1.2を参照)。つまり、Loは出発点か着地点かどちらかになるのである。②はある場所Lへ目的語Oを下へ移動させる用法である。

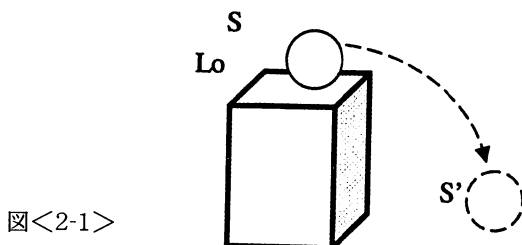
次は①と②の用法について考察してみる。

2.1 主体や事物が下への移動を表す場合→((S) + 下 + Lo)

主体や事物が下へ移動する場合、主体や事物の立脚点の違いにより、二つの用法に分けられる。

2.1.1 主体や事物がある場所から離れる場合

我々は主体や事物の移動を把握していく場合、その移動の際立った部分に焦点を当てながら認知していく。外部世界の対象の理解は、認知のドメイン(cognitive domain)との関係によって相対的に特徴づけられている。この認知のドメインは、プロファイル(profile)とベース(base)の関係で規定される。プロファイルは認知のドメインの中の焦点化されている部分、ベースはプロファイルを際立たせる背景となる部分である(山梨2000:20)。もし、主体や事物の出発点をプロファイルされるなら、次の図<2-1>のように主体や事物Sが場所目的語Loから下へ移動し、S'は着地した後の主体や事物を表す。Sの移動する軌道は点線で表している。出発点Loは“下”の後につき、プロファイルされているが、着地点は背景化され、文中に現れない。



主体や事物が離れる場所Loの語彙的意味によって、Loを実在の場所と抽象的場所に分けることができる。

2.1.1.1 Loは実在の場所を表す場合

実在の場所とは、物理的に存在し、目に見え、一定の形を持つ場所のことである。Loは実在の場所を表す場合、主体や事物はその場所から下への移動を表す。

(3) 下山。(山を下りる)

(4) 下船。(船から降りる)

(5) 从重庆乘船,顺流而下,两天可以到武汉。(重慶から乗船して流れを下れば2日で武漢に着くことができる)

(6) 这一站只下了两个人。(このバス停では二人しか降りなかった)

(7) 这一场戏你从右边的旁门下。(この場面では君は右手から退場する)

(3) と (4) は主体が場所目的語“山”、“船”から下への移動を表す。(5) ～ (7) の場所目的語は明示されていないが、それぞれ“长江”、“公共汽车”、“舞台”であることが推測できる。

主体の離れる場所は必ずしも高い場所でもなくてもよい。表の舞台から離れるということはメタファー的に、“下”への移動だと認識される。(8)の場所目的語は“球场”である。

(8) 北京队的五号下,九号上。(北京チームの5番選手が下がり,9番選手が出る)

2.1.1.2 Loは抽象的場所を表す場合

“下”の後に実在の場所だけではなく、抽象的場所である目的語をつけることもできる。抽象的場所とは、物理的に存在せず、目に見えず、一定の形を持たぬ場所のことである。

主体が離れる場所は抽象的場所であれば、その場所はあるシステムを表す場合が多い。主体はそのシステムから降り、離れれば、やっていることが終わり、終了するという拡張的な意味が得られる。

(9) 下班了。(勤めがひけた)

(10) 你下了课到我办公室来一趟。(授業が終わったら私の事務室に来てください)

(11) 课早下了。(授業はとくに終わった)

(9)～(11)の“班”と“課”はあるシステムを表していて、そこから離れることはそのシステムとは関係が終わり、進行する動作が終了するという派生的な意味になる。

人間の今いる状況より権限的、金銭的、生活水準レベルなどが“下”であれば、「低い」位置にあると認識され、そこへの移動は“下”という動詞を使う。

以下は史(1989:204)の用例を参照されたい。

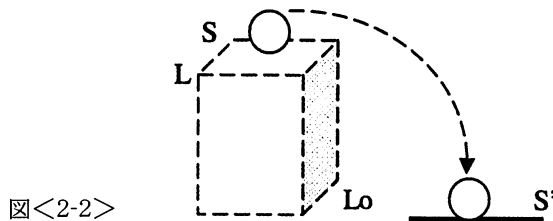
(12) 下岗。(リストラされる)

“岗”は職場の意味を表すが、職場から離れることは仕事を失うことを意味する。

以上のように主体や事物が出発点から離れる場合、その出発点は実在的なものと抽象的なものに分けられる。出発点から離れることはその場所とは関係を持たなくなり、終了する或いはその場所を失うという拡張した意味が得られる。出発点から離れる場合の用法は、時には日本語の格助詞「から、を、へ」に当たる。

2.1.2 主体や事物は移動し、ある場所に着地する場合

主体や事物の着地点がプロフィールされるなら、図<2-2>のように、主体や事物Sは場所Lから下へ移動し、場所目的語Loに着地するのを表す。



主体や事物の出発点Lは背景化され、文中に明示しない場合が多い。着地点の場所目的語Loはプロフィールされ、動詞“下”の後につく。

着地する場所の語彙的意味によって、その場所は実在の場所と抽象的場所に分けることができる。

2.1.2.1 実在の場所

(13) 下地。(床に下りる)

“地”は主体の今いる場所より低いいため、移動動詞“下”を使う。

社会的な地位が低いと見られている場合は、そこへの移動も動詞“下”を使う。

(14) 下獄。(監獄に入る)

(15) 赵师傅下乡去了。(趙親方は農村へ行った)

(16) 师长下连队去了。(師団長が中隊に入った。(下部の事情を知るために))

(17) 厂长下车间了。(工場長が仕事場に入った)

(18) 下馆子。(食堂で食事をする)

(19) 下厨房。(台所へ料理をする)

“獄”、“郷”、“連隊”、“车间”は社会的な地位から言うと、主体の今いる地位より低いので、“下”を使う。“館子”は“餐厅”と比べれば、相対的に低く位置付けられているので、移動する動詞には“下”を使う。“厨房”で仕事をする人は身分の低い人だと見られているので、そこへの移動は動詞“下”を使う。

(20) 这块布要先下下水,然后再去做衣服。(この布はまず水を通してから仕立てに出しなさい)

(20)の着地点は“水”で、“布”は“水”の中に下ろされることによって、洗濯されるのである。

2.1.2.2 抽象的場所

場所目的語Loは抽象的場所を表す場合、Loは常識的に低い位置にあると認識されるか、或はある場所と比較し、低い場所に位置されているのである。次の例を参照されたい。

(21) 下地獄。(地獄へ行く)

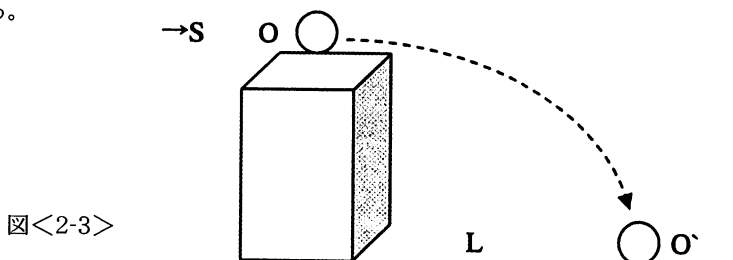
(22) 下海。(商売に従事する)

“地獄”は実在に存在していない場所であるが、社会的地位からいうとどん底にあると認識されているので、そこへの移動は“下”を使う。“海”は地上線では一番低い位置にある。(22)の“海”は実際の「海」ではなく、ここでは「商売」という意味を表す。「商売に従事する」ことは昔から低く見られていたので、そこへの移動は“下”である。

以上は主体や事物の移動先に焦点を当てる用法であるが、着地点に焦点を当てれば、ある結果性が強調されるか、或は着地点に着いてからこれから新たなことを始めるという意味に繋がる。この場合は一部は日本語の格助詞「に、へ」に相当する。

2.2 対象物を下へ移動させる→((S)+(給、在)+L+下+O)

“下”の後に対象目的語がある場合、②の文型になる。主体や事物の力で対象物を下へ移動させるという意味を表す。Sは主語で、実線の→は主体や事物が対象物に働きかける力を表す。点線の→は対象物の移動する軌道を表し、Lは主体の着地点を表す。Oは着地点に移動した対象物である。



- (23) 团部下了一道命令。(連隊本部が命令を下した)
(24) 你会下围棋吗? (君は碁が打てますか)
(25) 这只母鸡下过几十只蛋了。(このめんどりは数十個の卵を産んだ)
(26) 下面条。(沸いている湯にうどんを入れて煮る)
(27) 下本钱。(資本を投入する)
(28) 棉花昨天刚下了种。(綿花はきのう種をまいたばかりだ)

(23)～(25)は主体“团部”、“你”、“母鸡”の力で目的語“命令”、“围棋”、“蛋”を下へ移動させるのである。(26)～(28)は目的語を移動させる主体はそれぞれ省略したが、下へ移動する目的語はそれぞれ“面条”、“本钱”、“种”である。

目的語を下へ移動させる場合、「把構文」を使うことができる。

- (29) 把窗户下下来。(窓を取りはずす)
(30) 把他的枪下了! (彼の銃を取り上げろ)
(29)、(30)は目的語“窗户”、“枪”をある場所から下へ移動し、外すのを表す。

自然現象に関する用法もある。

- (31) 下了雨就凉快了。(雨が降れば涼しくなる)
(32) 下霜。(霜が降りる)
(33) 下雾。(霧が出る)
(34) 下雹子。(ひょうが降る)
(35) 去冬下过几场大雪。(去年の冬は何回か大雪が降った)

(31)～(35)までは自然現象に関する用例で、Sは明示されていないが、ある自然の営みの力で、“天”から“雨”、“霜”、“雾”、“雹子”、“雪”を降らせるのである。自然現象についての表現は主語が文中に普通現れない。

主体や事物は対象物を下へ移動させる場合、その対象物は実物ではなく、抽象的なものである場合もある。

- (36) 你怎么能下这样的狠心? (君はどうしてそんなに残酷になれるのか)
(37) 这坏蛋竟敢下刀子杀人。(この悪党は大胆にも刃物で人を殺そうとした)

“狠心”と“刀子”はそれぞれ抽象的な概念を表し、下への移動に伴って、場所 L (明示しない場合もある) にある影響を与えることになる。

主語がある場所に向かって、対象物を移動させる場合、その場所の前に介詞“给”をつけることができる。

- (38) 团部给他们下了一道命令。(連隊本部が命令を下した)

“团部”は主語で、場所“他们”にむかって、目的語“命令”を移動させるのである。

中国語では上下関係、指導するものと指導されるものとの関係、中央と地方との関係などを“上”と“下”によって表現されている。(38)の主語“团部”は目的語である“命令”を、着地点である“他们”のほうへ移動させるのである。“团部”は“他们”より、高い位置にあるため、“命令”の移動は“下”である。

- (39) 给词下了个定义。(語に定義を与える)

(39)の主語は省略されているが、目的語は“定义”で、目的語の着地点は“词”である。

ある場所で対象物を下へ移動させる場合、動詞“下”の前に介詞“在”をつけることもできる。

- (40) 在这儿下过几网,没网到鱼。(ここで何回か網を打ったが、魚はかからなかった)
(41) 他在数学方面,功夫可是下得不少。(彼は数学には大いに身を入れた)

(40)と(41)は主語が目的語“网”と“功夫”に働きかけ、目的語を“这儿”、“数学方面”に移

動させる例である。

動詞としての“下”は出発点に焦点を当てる場合、その場所から離れ、その場所と関係を持たなくなり、「降りる、終了する」などの意味を表す。また、派生的に、その場所を失う意味を表す場合もある。着地点に焦点を当てる場合、着地してから、そこに留まるか、次の新しいことを始めることを意味する。動詞“下”の後に目的語がある場合、主体や事物がその目的語である対象物を下へ移動させるのを表す。ある場所に向って、対象物を下へ移動する場合、動詞“下”の前に介詞フレーズ“給〜”をつけることができる。また、対象物を下へ移動する行為を行う場所を明示する場合、動詞“下”の前に介詞フレーズ“在〜”入れることができる。

3. 方向補語としての“〜下”

現代中国語における方向補語とは、動詞または形容詞の後にあって、動作・行為・状態などの趨勢・方向を表す一方、様々な派生義を表すものとされている。方向補語としての“〜下”は主体や事物が動作に伴い、高い場所から低い場所への移動と対象物が高い場所から低い場所へ移動されると二つに分かれている。目的語の有無によって、二つの文型に分かれている。

① (S) + V下 + (Lo)

② (S) + (在+L; 从+L) + V下 + O; (S) + V下 + O

①は“〜下”の後に目的語がない用法で、②は目的語Oがある用法である。①の動詞と方向補語“〜下”の後に場所目的語をつけられない場合もある。

3.1 主体や事物が下への移動→ (S) + V下 + (Lo)

動詞と方向補語“〜下”の後に場所目的語がある場合、主体や事物が「下」への移動を表す。主体や事物は動作に伴って、下へ移動される時、視点の置き方によって、二つの用法に分けることができる。つまり、出発点に視点を置くか、着地点に視点を置くかということである。

3.1.1 主体や事物がある動作によって、ある場所から離れる場合

主体や事物の移動する出発点に視点を置くなら、主体や事物がある場所から離れるのを表す。

(42) 他一溜烟地跑下山去。(彼は一目散に山を降りた)

(43) 他跳下马。(彼は馬から下りた)

(42) と (43) は主体が動作に伴い、場所目的語“山”と“马”から離れる例である。

3.1.2 主体や事物がある動作によって、ある場所に着地する場合

主体や事物が下へ移動した後に、ある場所に着地する場合、着地点は方向補語“〜下”の後につく。

(44) 他跳下地。(彼は床に飛び降りた)

(44) の着地点は“地”である。

動詞と方向補語“〜下”の後に場所目的語がつけられない用法もある。

(45) 你坐下。(お掛けなさい)

人間の体が下への移動を表す場合、着地点を明示しないのが殆どである。(45)のほかに、“蹲下”、“趴下”、“躺下”の場合も着地点を明示しない。というのは(45)のような例は動詞の意味によって、方向補語“〜下”は着地点に焦点を当てるという読みしかないので、“〜下”の後に着地点を明示しなくても、文脈では明らかになっているため、改めて提示する必要はないと考えられる。

しかし、動詞“跳”なら、後の場所目的語の意味によって、その場所目的語は出発点だったり、着地点だったりする可能性がある。(44)の“〜下”の後の場所目的語“地”は着地点であるが、

(46) の“桌子”は出発点である。

(46) 他跳下桌子。(彼はテーブルを飛び降りた)

以上は動詞と方向補語“～下”の後に場所目的語がつく場合とつけられない場合の用法について考察した。

3.2 主体や事物が対象物を移動させる→ (S) + (在+L; 从+L) + V下+O
(S) + V下+O

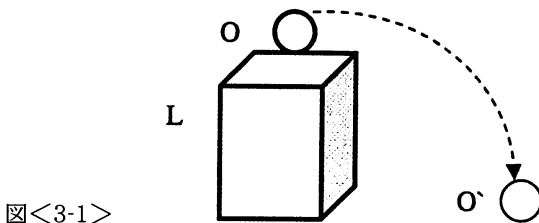
主体や事物が対象物を移動させる場合、移動する時の出発点に焦点を当てるか、着地点に焦点を当てるかによって、次の二つの用法が挙げられる。

3.2.1 動作によって、主体・事物のもとから対象物を移動させる場合

主体や事物が対象物を移動させる場合、対象物が実際に移動する場合と対象物自体が移動しない場合と二つに分けられる。

3.2.1.1 対象物が実際に移動する場合

対象物のある場所から離される場合、その場所の前に介詞“从”をつけ、「(S) + (从+L) + V下+O」という文型を使うことができる。“从”の後の場所は対象物の出発点に当る。



図<3-1>では、対象物Oは場所Lから下へ移動されることによって、離脱されるのである。この用法では、場所Lと目的語である対象物Oに焦点を当てている。

(47) 从脚上脱下皮鞋,换上拖鞋。(足から靴を脱いでスリッパに履きかえる)

(48) 从机器上卸下零件。(機械から部品を取りはずす)

(47) と (48) は主語が省略されているが、“脚上”と“机器上”という場所から、対象物“皮鞋”と“零件”を離されるのである。

対象物を離脱させる場所を省略する用法が殆どである。

(49) 放下书包。(かばんを下に置きなさい)

(50) 留下地址。(住所を書き残しておく)

(51) 存下钱。(お金を預ける)

(52) 停下脚步。(歩みを止める)

(53) 喝下口酒说。(一口お酒を飲んで言った) (邱1997:23)

(54) 服务员端下一盘菜倒掉了。(店員は一皿の料理を捨てた) (刘等2001:553)

(49)～(52)までの移動される対象物はそれぞれ“书包”、“地址”、“钱”、“脚步”であって、ともに主体から離されるのを表す。(53)の目的語“酒”は出発点の「口」から着地点の「お腹」への移動を表す。(54)の対象物は“菜”であって、「テーブル」から移動されるのである。

以上の用法は動作に伴って、目的語である対象物のある場所から離れさせることによって、離脱または分離、剥離などの意味を表すのである。

3.2.1.2 対象物が抽象的に移動される場合

対象物の抽象的な移動とは対象物は実際に移動することなく、抽象的に主体や事物から離されるのを表す。

(55) 他撤下妻子和四个孩子死了。(彼は妻と4人の子供を残して死んだ)

(56) 定下计策。(計略を立てる)。

(57) 現在一看, 小工友们这样好, 他才放下心来。(同僚たちがこんなに優しく接してくれるのを見て、彼はやっと安心した) (邱1997:21)

(58) 他...很想静下心来想想, 或是找个局外人给权衡权衡。(彼は...冷静に考えてみたがった。或は部外者の誰かに教えてもらいたがった) (同上)

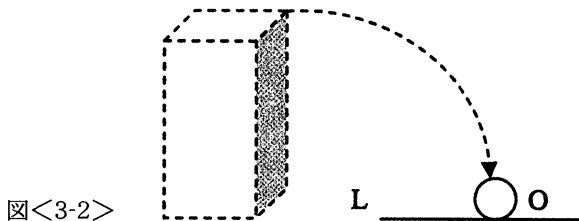
(55)は目的語“妻子和四个孩子”は“他”から離されるが、“妻子和四个孩子”は実際に移動したわけではない。(56)の目的語“计策”は人間の頭脳から抽象的に下へ移動することによって、定着させるのである。(57)、(58)の目的語“心”も実際に“下”へ移動したのではない。抽象的に“下”への移動はメタファー的に「落ち着く、安心する」という拡張した意味が得られる。

動作とともに、目的語である対象物を主体や事物から離される場合、動詞と方向補語“～下”の前に介詞“在”と着地場所Lをつけることができ、「(S) + (在+L) + V下+O」という文型を使う。

(59) 请在这儿写下你的名字。(ここにあなたの名前を書いてください)

(60)一颗流星,在深蓝色的天上划下一道白光, 很快又消失了。(.....流れ星が一つ、紺青の夜空に一筋の白光を残し、またたく間に消えた) (杉村1982:79)

(59)は“这儿”という場所で、“写”という動作に伴い、目的語である対象物“名字”を、場所である“这儿”に移動させ、“这儿”に残されるのである。(60)の対象物“白光”は“划”という動作に伴って、場所“天上”に残される。(59)と(60)の対象物はともに実際移動したわけではなく、動作によって、ある結果が場所Lに残されるのである。



以上の用法は図<3-2>で示したように、対象物Oはもともとからあったものではなく、動作とともに場所Lに残される結果である。

(61) 浑身是刺刀穿下的窟窿。(体中銃剣に刺し通されたあとが残っていた) (杉村1982:79)

(62) 衣服上烧下好多洞。(火に焼かれた服にいっぱい穴があいた) (同上)

(63) 王大爷腿冻下毛病, 一到冬天就疼。(王お爺さんは冷やしたため足に持病が残り、寒い日にはそれが痛む) (同上)

(61)～(63)は介詞“在”はないが、対象物“窟窿”は“穿”という動作によって、場所“浑身”に残され、“洞”は“衣服”に、“毛病”は“腿”にそれぞれ残されるのである。

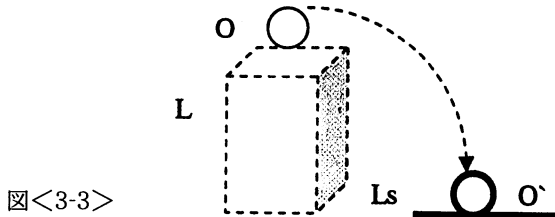
以上は対象物が実際に移動したものではなく、動作によって、もたらした結果をある場所に残すことを表す。

対象物の移動に関して、違う介詞を使うことが分かった。介詞“从”なら、対象物が出発点からの移動を表し、介詞“在”なら対象物が移動された後に、ある場所に着地することを表すので

ある。

3.2.2 動作によって、対象物が主体や事物のもとに移動される

この用法では、対象物が必ずしも高い場所にあるわけではない。対象物は主体にとって、必要なものであって、高く位置づけられている。



図<3-3>の対象物Oは場所Lから主体や事物である着地点Lsに移動し、主体や事物のものに所有する。Lsは着地点である主語を表す。O[′]は移動した後の対象物である。太線である対象物O[′]、着地点である主語Lsはプロファイルされている。

対象物Oの移動は実際の移動と抽象的な移動に分けることができる。

3.2.2.1 対象物は実際に移動する場合

対象物を他所から主体や事物のもとに移動されるということは、その対象物を主体や事物のものにするということになる。

(64) 曹铁强倏地跳起，一把夺下小瓦匠的镰刀。(曹铁强は素早く飛び起きて、若い左官から鎌を奪い取った) (邱1997:19)

(65) 他感到愧痛，赶忙爬起来，接下大壮手中的饭碗。(彼は恥ずかしくて悲しく思い、急いで立ち上がって、大壮からお碗を受け取った) (同上)

(64)、(65)の対象物“鎌刀”、“饭碗”は相手から着地点である主体“曹铁强”、“他”のところに移動され、主体のものになる。対象物“鎌刀”、“饭碗”は主体にとって、必要なものであって、高く位置づけられているので、その移動の方向「下」へである。

「把構文」を使うこともできる。

(66) 把钱收下。(お金を受け取ってください)

(66)は対象物“钱”を主体のところに移動され、主体のものになる文である。

3.2.2.2 対象物が実際に移動しない場合

対象物は実際に移動せず、主体の所有になる場合もある。

(67) 把这栋楼买下来。(このビルを買い取る) (关 2000:27)

(68) 打下好几座县城。(いくつかの町を攻め落とした) (邱 1997 : 23)

(69) 我们的先头部队又攻下了一座县城。(我々の先頭部隊はもう一つの町を攻め落とした) (关 2000:25)

(70) 把这句话记下。(この言葉を覚えてください)

(67)の対象物“楼”、(68)の“县城”、(69)の“县城”、(70)の“话”は主体にとって、必要なものなので、高く位置づけられているが、実際に移動するわけではない。所有権の移り変わりは一種の移動行為だと見ることができる。

3.3 “下”の意味拡張

“下”は動詞と、方向補語以外に、拡張した用法もある。

3.3.1 ある容器の中に対象物を入れる

目的語である対象物を着地させる場所はある容器であれば、その容器の中への移動は補語“下”を使う。この場合、主語は場所であるが、ある容器を表す。そこに定着させる目的語の前によく数量詞をつける。この用法はその容器の中へ目的語が下への移動が可能かどうかについてのものである。

(71) **这个书包能装下十本书。**(この鞆は十冊の本を入れることができる)

“书包”はある容器を表すが、目的語“书”を“装”という動作に伴い、容器“书包”の中へ移動できることを表す。

この用法はよく可能補語の形をとる。否定の場合は必ず可能補語を使う。

(72) **这间屋子住得下八个人。**(この部屋は8人も泊まることができる)

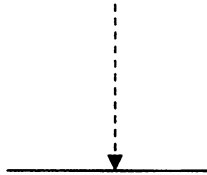
(73) **这个瓶子装不下二斤糖。**(この瓶は500グラムの砂糖は入りきらない)

(72)、(73)は目的語“人”、“糖”が、容器“屋子”、“瓶子”の中に移動できるか否かという意味を表す。

3.3.2 量詞としての機能

“下”は「動詞+数詞+“下”」の形で、量詞として使われる場合がある。

図<3-4>



図の<3-4>のように、動作が下への移動に伴って、一回完結した動きが得られる。一回の完結した動きを数詞の「一」だと数えられる。点線の→は動作の動きを表す。

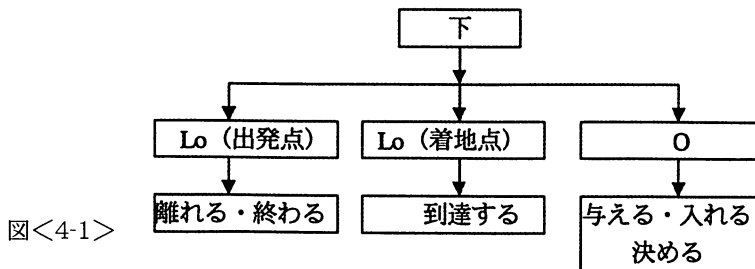
(74) **钟敲了三下。**(時計が3時を打った)

(75) **打了几下手势。**(何回か手振りで合図した)

4. まとめ

中国語の“下”は日本語の「降りる」という動詞に当たるが、日本語は主体や事物の出発点に着眼すれば、助詞「から、へ、を」を使い、着地点に着眼すれば、助詞「に」を使い、助詞は「降りる」の意味の使い分けの機能を果たしている。

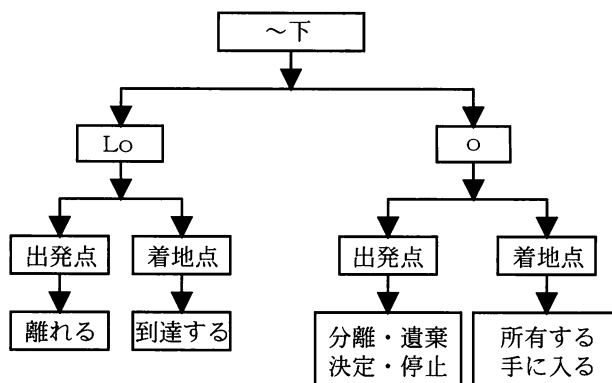
しかし、中国語は日本語のように助詞というようなものはないため、動詞と目的語、及び文全体の関係から意味判断をしなければならない。“下”と“～下”のプロトタイプ的意味は「主体や事物が高い場所から低い場所への移動を表す」のであるが、“下”と“～下”の後につく場所目的語と目的語の意味によって、更に拡張した意味が得られる。



図<4-1>は動詞としての“下”の意味的ネットワークを示している。“下”の後には場所目的語で

ある場合と目的語である場合の違いによって、“下”の意味も拡張される。

方向補語としての“～下”の意味的ネットワークは次のように示す。



図<4-2>

“下”と“～下”の後は場所目的語である場合、“下”の表す語彙の意味がほぼ同じであるが、方向補語の“～下”の後に抽象的な場所目的語をつけることが殆どないため、動詞の“下”より拡張した意味があまり見られない。図<4-2>では、“～下”の後の目的語は出发点からの移動であれば、ある事物及び場所から離れ、「分離」、「遺棄」、「決定」、「停止」などの意味を表す。もし“～下”の着地点がプロファイルされているなら、着地点である主体がその移動される目的語を所有することになるのである。

図<4-1>と図<4-2>から分かるように、“下”と“～下”の後に目的語がある場合、“下”と“～下”の意味は抽象的で、基本義から離れ、拡張した意味を得るのである。この点について、邱（1997：25）は同じような指摘があって、次のように述べている。“下”在动词和‘起点成分’、‘终点成分’之间时，意义最实在、最明显；在动词和‘客体成分’之间时，意义就比较虚灵；其余的则处于两者之间。”しかし、このような意味拡張は全部プロトタイプの意味をベースにして、得られたものであって、決して突発的なものではないことが分かった。

<注>

- 1) 本稿では“下来”と“下去”で構成されるものは考察の対象外とする。
- 2) () はいつも文に現れるとは限られない成分である。以下の場合も同じである。

<参考文献>

- 相原茂・藤堂明保 1985『新訂中国語概論』。大修館書店。
- 荒屋勸主編 1995『中国語常用動詞例解辞典』。
- 房玉清 1992『实用汉语语法』。北京：语言学院出版社。
- 刘月华 1988<几组意义相关的趋向补语语义分析>。《语言研究》第1期(总第14期)。
- 刘月华 1989《汉语语法论集》。现代出版社。
- 刘月华・潘文娒・故 wěi 1983『現代中国語文法総覧』。[相原茂(監訳)・片山博美・守屋宏則・平井和之(共訳) 1996 ころしお出版社]。
- 刘月华・潘文娒・故 wěi 2001『实用现代汉语语法』。商务印书馆。
- 史锡尧 1989<使用动性语素‘上’、‘下’的心理基础>。《世界汉语教学》第4期 203-206。
- 史锡尧 1993<动词后‘上’、‘下’的语义和语用>。《汉语学习》第4期 5-8。

- 关键 2000<补语“下(来/去)”“下来”“下去”的意义和用法>。《汉语文化研究》, 17-34。
- 杉村博文 1982「方向補語(補助動詞)「上」「上来」「上去」「下」「下来」「下去」」。『日本語・中国語対応表現用例集Ⅳ』
- 张其昀 1995<运动义动词“上”、“下”用法考辨>。《语言研究》第1期, 37-43。
- 邱广君 1997<谈“V下+宾语”中宾语的类、动词的类和“下”的意义>。《语文研究》第4期(总第65期), 15-25。
- 山梨正明 2000『認知言語学原理』。くろしお出版。

关于汉语的“下”和“~下”

汉语的“下”即可以做动词, 又可以做趋向补语。“下”和“~下”的基本意义是“表示主体或事物从高处向低处的移动”。但根据后接的场所宾语和宾语的词汇意义的不同, 可以获得许多引申义。动词“下”的后面是场所宾语时, 场所宾语的出发点或到达点会被焦点化。被焦点化的是出发点时, 表示“离开、结束”等义。如果是到达点则表示“到达某地”等义。“下”的后面是宾语时, 表示主体和事物使宾语向下移动, 有“放入、给予”等义。趋向补语“~下”的后面是场所宾语时, 表示主体或事物伴随着动作从出发点移动, 或到达某地点。“~下”后面的宾语从出发点移动时, 表示离开某事物或场所, 有“分离、遗弃、决定、停止、留下”等义。如果宾语的到达点被焦点化, 宾语由上向下被移动, 则表示其宾语为主体所有。

关键词 动词 趋向补语 移动 场所 宾语